

第6回宮崎県総合計画審議会

宮崎県地方創生推進懇話会

合同会議

会議録

日時 令和4年8月8日（月）

14：30～15：15

場所 宮崎県防災庁舎 防74・75号室

○事務局

それでは定刻になりましたので、ただいまより、第6回宮崎県総合計画審議会・宮崎県地方創生推進懇話会合同会議を開会いたします。

本日御出席の委員は15名でございまして、規定の定足数に達しておりますことを御報告いたします。

また、本日御出席の委員の皆様の御紹介につきましては、お手元に配布の名簿に代えさせていただきますが、先般の委員改選により新たに御就任いただきました委員の方について御紹介を申し上げます。

宮崎県スポーツ協会専務理事の藤本委員でございます。

○藤本委員

藤本でございます。よろしくお願いいたします。

○事務局

宮崎県PTA連合会副会長の松本委員でございます。

○松本委員

松本です。よろしくお願いいたします。

○事務局

続きまして、先般の審議会・懇話会の書面審議におきまして、令和4年7月3日付けの委員改選に伴い、会長選任を議題とさせていただいたところですが、御審議いただきました結果、全会一致で、県町村会会長の佐藤委員が、引き続き会長に選任されましたことを報告いたします。

それでは、規定によりまして、今後の議事は、会長が議長となって進めることになっておりますので、これからの進行を佐藤会長にお願いしたいと思います。

佐藤会長よろしくお願いいたします。

○佐藤会長

宮崎県町村会の佐藤でございます。

皆様の御推挙によりまして、引き続き私が取りまとめ役を務めさせていただきます。皆様の御意見を踏まえた忌憚ない御意見を賜ることによりまして、活発な審議になりますこと、また、円滑な議事進行への御協力をよろしくお願いいたします。

○佐藤会長

議事に入ります前に、会長代理と、本日の会議録署名委員を指名させていただきます。

まず、会長代理は引き続き、出口委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○佐藤会長

また、会議録署名委員は、加納委員と長友委員にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。

本日の議題は、お手元に配付の次第にありますとおり、「新しい「ゆたかさ」前進プログラムの政策評価について」であります。

政策評価の基準や実施方法、内部評価の内容につきましては、書面審議となった前回の審議会資料のとおりでありまして、委員の皆様には、この内部評価等を参考に、社会情勢による影響等を踏まえ、各委員個人としての外部評価を御提出いただいたところであります。

本日は、当審議会として、各プログラムの最終的な外部評価を決定していくこととなります。時間が限られておりますので、円滑な進行に御協力をお願いいたします。

それでは事務局より資料の説明をお願いします。

○総合政策課長

私の方からは資料1から4まで、まとめて説明をさせていただきます。

まず資料1ですが、「プログラム総括表」ということで、皆様からいただいた評価をそのまま一覧表にしたものでございます。色が濃くなっているところが一番皆様の意見が多かったところであり、「仮置き」という形で、一番右側に外部評価として記載しております。なおこの括弧書きにつきましては昨年度の評価を参考までに記載しております。

次に、資料2ですが、前回の書面審議でお送りした後に実績値が確定したものが2点ございます。「内部評価につきましては変更なし」ということで評価に影響を与えてないということになります。

続きまして資料3ですが、委員の皆様からいただいた「主な御意見について」書かせていただいております。

中身の一つ一つにつきましては、時間もありませんので省略いたしますが、皆様からいただいた意見は基本的に反映させていただいております。ただ、将来に関する課題など、今回の中で書けないものについてはアクションプランで対応させていただきたいと考えております。

続きまして資料4の政策評価の答申案でございます。

まず1ページ2ページですが、評価の概要として、評価の趣旨や評価の方法を記載しております。

3ページ4ページが先ほど申し上げた評価結果の一覧表でございます。

続きまして5ページ、これから個別に各プログラムの内容について説明をさせていただきます。と思っております。

まず、5ページ「プログラム1 人口問題対応プログラム」でございます。

外部評価のところでございますが、先ほど一覧表でお見せしたとおり、現在は仮で「B」ということで一定の成果が出ているという評価にしております。

内部評価についてはこの表にあるとおりです。

重点指標の状況ということで評価の概要ですが、まず「県内新規高卒者の県内就職割合」は、目安値を達成しています。また、「総人口」や「合計特殊出生率」につきましては、目安値を下回っております。また、「県内大学・短大等新規卒業生の県内就職割合」は、昨年度より4.4%改善したものの、依然として若年層の県外流出が続いている状況でございます。

次に、成果と課題ですが、コロナ禍による地方回帰の流れもあり、移住、UIJ ターンの促進は着実に成果が見られております。依然として若年層の県外流出が続いていることから、今後は、県内就業・就学機会の確保、働く場所の魅力向上やPRを行って、人財の育成・確保、地域の暮らしの確保や中山間地域の振興に向けた取組をより一層強化する必要があります。また、合計特殊出生率・出生数ともに低下・減少していることから、子育てと仕事が両立し、安心して子どもを生み育てることができる環境づくりをより一層強化する必要があります。また、子どもたちの学力・体力、社会を生き抜く力を育むとともに、自己肯定感や郷土への誇り・愛着を育む教育を充実させることにより、宮崎県の未来を担う人財を育成することが求められると整理をしております。

これらを踏まえまして、総括評価としては、移住・UIJ ターンの促進などで着実に成果が見られ、プログラム1全体としては「一定の成果が出ている」と認められるものの、若年層の流出抑制や合計特殊出生率・出生数の維持等は厳しい状況が続いていることから引き続き、社会減・自然減対策の強化が求められるとまとめています。

この内容も「B」が仮置きという前提で、文章を作成しておりますので、文章自体は後程、全体評価を踏まえて修正させていただきます。

6ページからは、今まで申し上げた話がより細かく書いてありますので、飛ばして11ページをお開きください。「プログラム2 産業成長・経済活性化プログラム」でございます。

外部評価につきましては、仮置きではございますが「B」ということで一定の成果が出ています。

内部評価は、記載のとおりです。

重点指標の状況ですが、「就業者1人当たりの農・水産業の生産額」は、目安値に至らなかったものの、「就業者1人当たりの食料品等の生産額」や「売上高が新たに30億以上成長した企業」、「県際収支」は目安値を達成しており、地域経済を支える企業、産業の成長・育成に向けて着実に成果が見られます。

次に成果と課題ですが、成長産業化につきましては、一定の成果が見られるものの、担い手の確保に向けたキャリア教育等の多様な人財の育成や生産性の向上、省力化の推進を強化する必要があります。引き続き、事業者の販路回復・拡大等の取組を支援するとともに、持続可能なサプライチェーンの構築やアフターコロナを見据えた積極的な取組の強化が求められております。また、資源・エネルギーの循環促進等につきましては、再生可能エネルギーの導入促進等により、2050年ゼロカーボン社会づくりに向けた取組を強化する必要があります。交通・物流ネットワークにつきましては、基幹整備は着実に進んでいますが、公共交通の利用者回復に向け、関係機関や民間企業と連携して、利用促進に取り組む必要があると考えております。

このことを踏まえて総括評価ですが、成長産業の育成や交通・物流ネットワークの基盤整備で一定の成果が見られるので、プログラム2全体としては、「一定の成果が出ている」と認められます。引き続き、アフターコロナを見据えた取組や本県の強みを生かした持続可能な脱炭素・循環型社会づくりに向けた取組の強化が求められます。

次に、17ページの「プログラム3 観光・スポーツ・文化振興プログラム」でございます。外部評価からの評価結果としては仮置きで「B」と一定の成果が出ています。内部評価については、記載のとおりです。

重点指標の状況につきましては、「観光入込客数」や「観光消費額」などは、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う移動の制限等により、目安値を大きく下回っております。

「成人の週1回以上の運動・スポーツの実施率」は目安値には至らなかったものの、近年増加傾向にあり、一定の成果が見られると考えております。

成果と課題ですが、観光分野につきましては、誘客が非常に厳しい状況ではあるものの、本県観光の再興に向けて、新たな価値観や観光ニーズに対応したアフターコロナを見据えた戦略的な誘客に向けた取組を強化する必要があります。スポーツ分野におきましても、依然として厳しい状況が続いておりますが、屋外型トレーニングセンター等の整備を追い風にスポーツキャンプ・合宿等の全県化・通年化・多種目化に向けた誘致強化、また、受入体制の更なる充実を図る必要があります。引き続き県民がスポーツに親しむ環境づくり・運動の習慣化を促進する必要があります。文化分野につきましては、国民文化祭を契機として更なる文化振興を図り、文化を起点とした魅力ある地域づくりや世界ブランドを活用した地域活性化につなげていく必要があります。

総括として、新型コロナウイルス感染症の影響が依然として大きく、観光の再興など更なる改善が必要であり、アフターコロナを見据えた戦略的な誘客や国民文化祭を契機とした文化力の向上に向けた取組の強化が求められております。

次に、21ページの「プログラム4 生涯健康・活躍社会プログラム」でございます。

外部評価につきましては、評価結果は仮置きで「B」、一定の成果が出ているということでございます。

内部評価は記載のとおりです。

重点指標の状況ですが、「健康寿命の全国順位」、「健康寿命の延伸」については、概ね目安値を達成しております。「性別によって役割を固定することにとられない人の割合」が目安値に届かなかったものの、近年増加傾向にあり、着実に成果が見られます。また、「医療満足度」は目安値に至っておりません。

成果と課題ですが、福祉・医療の充実等につきましては、引き続き、地域間格差の解消や地域包括ケアシステムの構築に取り組むとともに、離職防止・定着促進を図る必要があります。健康づくりについては、関係機関等と連携して、特定健康診査の実施率の向上や望ましい食習慣・運動習慣、健康経営の普及啓発など、健康寿命の延伸に向けた取組をさらに強化する必要があります。生きる喜びを実感し、安心して暮らせる社会づくりについては、特に子どもの貧困対策は重要な課題であると考えております。進学率向上を目指すことにより貧困の連鎖を防止する必要があると考えております。また、ひとり親家庭などの支援、生活困窮者に必要な情報や支援が行き届くような体制の強化が求められているところです。性別や年齢・国籍等を問わず、誰もが尊重され、一人ひとりが活躍できる多様性を持った社会づくりに向けて、関係団体等と連携した意識啓発や人財育成、外国人財の受入環境整備の取組をより一層促進する必要があります。

総括評価として、福祉・医療の充実、交通事故対策等の安全で安心な社会づくりに一定の成果が見られ、プログラム4全体としては、「一定の成果が出ている」と認められます。引き続き、医師不足の解消など福祉・医療の充実に加え、貧困や孤立、自殺など新型コロナウイルス感染症の影響により深刻化する課題への対策の強化が求められます。

続きまして25ページの「プログラム5 危機管理強化プログラム」でございます。

外部評価につきましては、仮置きで「A」、成果が出ているとしております。

内部評価の結果は、記載のとおりです。

重点指標の状況につきましては、「県内の防災士の数」及び「緊急輸送道路の防災対策進捗率」は目安値を達成しており、着実に成果が見られます。また、「農場の飼養衛生管理基準の遵守状況」については、国の基準改正による遵守すべき項目の追加や基準の厳格化などに伴い、新基準における調査が初めての農場が多かったこともあり、目安値を下回っております。

成果と課題ですが、防災・減災対策につきましては、災害に強い県土・まちづくりは着実に進んでいると考えております。また危機に対して的確に行動できる人づくり・地域づくりによる自助共助の更なる促進など危機対応の機能強化が求められております。人への感染症については、関係機関等が一体となって取り組んでいること等により、対策は着実に強化されています。引き続き、医療・検査体制の充実やワクチン接種の加速化を図り、感染状況等を踏まえながら、社会経済活動の回復に向けたステージへと前進していくことが求められます。また、家畜伝染病につきましては、依然として発生リスクは高い状況が続いていることから、関係者一体となった取組を強化し、防疫意識の更なる向上・高い防疫体制の維持を図っていく必要があります。

総括評価につきましては、ソフト・ハード両面から防災・減災対策、人への感染症に対する流行対策強化などで成果が見られ、プログラム全体としては「成果が出ている」と認められます。今後も、あらゆる危機事象を見据え、県民が安心して暮らせる環境整備・体制強化を進めていくことが求められます。

このプログラム1から5につきまして、今からそれぞれ審議いただきますが、外部評価右側の「仮置き」の下に委員の皆様のそれぞれの数値を書いています。こちらも参考にしながら話を進めていただければと思います。私の説明は以上でございます。

○佐藤会長

ありがとうございました。

それではただいまから、御審議をいただきたいと思います。

最初にプログラム1「人口問題対応」についてであります。5ページにあります外部評価欄を御覧いただきたいと思います。点線の四角で囲んである委員の皆様の評価結果ですが、Bが13名、Cが7名で、意見が少し分かれています。

評価の決定に当たりましては、少し時間を設けまして、皆様方の御意見をいただきたいと思います。

何か御意見がありましたら、お聞かせいただきたいと思います。どなたからでも結構でございます。よろしく願い申し上げます。

はい、どうぞ。

○総合政策課長

先ほど会長が申されましたとおりその評価がBの方が13名、Cの方が7名と若干分かれております。その分かれるところはおそらく内部評価でいくと、「b b b c c」と「b」が多いですが、人口などのあたりが達成できなかったということで、「c」と思われた方がいると思っております。そこをどのように判断されるかということでございます。よろしく申し上げます。

○佐藤会長

はい、どうぞ。長友委員。

○長友委員

ありがとうございます。

今、課長がおっしゃられたように「b b b c c」という評価ですが、とても気になっているのが、上の「b」3つとその下の「c」2つは、全くテーマが違って、下の「c」は少子化の問題で一番取り組まないといけない事項が「c」ということは、やはりこの部分が、上の「b」に引っ張られて、全体が「b」になっていると思います。それなりの

評価だと思いますが、具体的に見ると少子化対策のところの評価的にあまりよくないと思うので、もう少しこの部分は議論しても良いと思いました。

○佐藤会長

ありがとうございます。はいどうぞ。

○難波委員

私も長友委員の意見に非常に共感するところがありまして、上の3つと下の2つは少し違うのではないかと思います。

特に、次世代です。私は現場にいて、学校に行ってお話したりしますが、未来を担う子どもたちの支援・教育について、疑問に思う場面が非常に多くあります。この前、全国学力テストの結果が出たと思います。テストがどうという訳ではないです。ただ、今回のテストの視点というのが、次世代、要は生き抜く力です。計算などではなく、教科書に載っていないところをどう考えて追及して、自分の答えを出していくのか。例えば探求学習などがフォーカスされて、それに対して、大学受験も変わってきています。社会が求める人材を試験から変えていこうという視点が非常に強く表れているのではないかと思います。

テストの点数が云々ではなく、他地域・他県がその取組をしっかりとしてきたからこそ、その差が出てきているのではないかと私自身感じているところです。未来を担う次世代への取組に対して、やはり「b」という評価は良いと思います。ただ、絶対評価として「c」である2つは、しっかり検証していかななくては非常に危ういのではないかと思います。以上です。

○佐藤会長

ありがとうございます。

この5項目において、「b」が多いけれども、やはり「c」の部分も少し考えて欲しいという御意見という捉え方をしました。他の委員の方々は何かございませんか。はい、どうぞ。

○松本委員

やはりPTAに関わっていて、学校に行かない子どもたちが増えているので、この人口問題というよりも子育てに対する問題として考える必要があるととても思っています。

コロナも関係しているので、学力の低下がそこに結びつくか少し疑問ですが、GIGAスクール構想で、せつかく子どもたち1人1台タブレットをもらっているのに、休校になっても学びを止めない方法を考えていく必要があると思っています。以上です。

○佐藤会長

ありがとうございます。事務局から意見はないでしょうか。

○総合政策課長

御指摘は我々も重々認識しておりまして、大事な項目の一つである部分がまだ弱いと思っています。それについては、成果と課題の3段目の「さらに」の後に書いてありますが、表現を検討させていただきたいとあって、そのようなところに、もう少し危機感などを付け加えさせていただければと思います。

○佐藤会長

委員の皆さんからの御意見は、やはり人口が減ることを止めるという解釈もあれば、この中に子どもたちをどう育てていくのかという視点をもう少し入れるというような意見が出たのではないかと私は思いますので、事務局もそのようなことは、十分認識をしながら、このような書きぶり、その対策等についてやっていくということですので、今回の最終的な評価については「B」で進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

それでは今いただいた御意見は、貴重な御意見だと思います。また事務局も認識されておりますので、「B」という外部評価で進めさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

○佐藤会長

では続きまして、プログラム2「産業成長・経済活性化」についてであります。

11ページを御覧いただきたいと思います。Aが2名、Bが17名、Cが1名で、多くの委員が「B」と評価されています。

こちらにつきまして、何か異論あるいはコメント等がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特になければ「B」ということで進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。何か御意見があれば、お伺いしたいと思いますが。はいどうぞ、西片委員。

○西片委員

宮崎大学の西片です。よろしくお願いたします。

判定に関しては、全然異論はないですが、プログラム1の「人口問題対応プログラム」の方に、6ページのところの指標「1-1-2 初任給水準の全国平均との乖離率」があります。これは、実際にはこの重点プログラム2の方の産業成長に非常に密着している内容だと私は指標的には感じています。

確かに、人が人口問題と対応する中で、経済を支えていくために、若い人を定着するという意味で、プログラム1の方にある指標だとは思いますが、一見宮崎の産業が良くなっているように見えるものの、大卒初任給が全国に対して上がっていないということは、やはり宮崎県の産業が伸びてきていないという部分もまだあるのではないかと思います。

そのため、一緒にとという印象を持って、「A」でいいのではないかと思いつつ、「B」にしました。この項目自体にどうしても横の繋がりのもものというの見にくくなっていますが、実際には、横断的に見た方がいい指標もあるのかなと感じました。すみません。感想ですが、ありがとうございます。

○佐藤会長

プログラム1とプログラム2のその横の繋がりという視点からの御意見だろうと思います。このことについては、今の貴重な御意見として、また承っていただければありがたいと思います。

特になければ先ほど申し上げましたが「B」ということで進めさせていただきたいと思いますがよろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。

それではプログラム2につきましては、「B」という外部評価で進めさせていただきます。ありがとうございます。

○佐藤会長

続きましてプログラム3「観光・スポーツ・文化振興」についてであります。

17ページを御覧いただきたいと思います。このプログラム3におきましては、Bが10名、Cが9名、Dが1名で、最も多い「B」を仮評価としておりますが、「B」と「C以下の合計」は同数で意見が分かれております。こちらもし時間を設けまして、皆様方の御意見をいただきたいと思います。

何か御意見がありましたら、お聞かせいただきたいと思います。よろしくお願いを申し上げます。はい、どうぞ。出口委員お願いします。

○出口委員

この指標をみると、やはりコロナが影響している指標が大分含まれていると思います。

前回もありましたが、そのコロナの影響を踏まえて判断するのか、それともそれはそれなりに受け入れていこうということですが、ほぼ同数ということで、私はその影響を考慮して「B」でも良いのではないかと思います。これはどのように展開するかわかりませんが、令和3年は、非常に影響が強くなったため、そういう意味では「B」で良いのではないかと思います。以上です。

○佐藤会長

はい。ありがとうございます。宮本委員お願いします。

○宮本委員

この評価をさせていただくときに、大変悩みました。

評価の視点というところで、「社会情勢による影響等を勘案して総合的に」とあったので、他のプログラムでもそうですが、悩むところもあり、特にこの観光面についてはコロナの影響があると感じました。

そして、コロナの影響を勘案して私も「B」で良いと総合的に判断をしました。これは、人それぞれ違うと思いますので様々な角度からの評価があると思いますが、そのあたりをこの「成果と課題」など実情にしっかりと表記していただければよろしいのではないかと思います。以上です。

○佐藤会長

ありがとうございます。

今、出口委員と宮本委員からあったように、私自身もこのプログラムは判断がしにくい分野だと思います。やはり一番、コロナの影響を受ける流れの中であり、なかなか判断が厳しいと思いますので、宮本委員がおっしゃったように、評価としては「B」に置かせていただきながら、コロナ後をどう見据えた上で観光振興や文化振興を行っていくのかということが重要ではないかなと思います。

私の町のことを少し話すと、ここ3年神楽や農村歌舞伎、地域の祭りが行われていません。中山間地の小さな町は、人と人との繋がりが基本でありまして、それがなくなったらと考えると、今以上に人口減少や地域社会が壊れていくという危機感があります。今うちの地域振興の職員は、各集落に出かけていき地域の方と話し合いをしています。密接な関係だった隣近所の繋がりでまで破壊されようとしていますので、コロナ後にどうやってお祭りを開催したり、地域の文化を守っていったりと、それを復活させようということ動いていますので、そのような面でもまた、この評価は非常に難しかったです。

そういう中で、出口委員や宮本委員からあったように「B」という形にさせていただいて、今後のコロナ後をどうやっていくのかが一番の課題だと思いますので、そのような形で処理させていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

よろしいでしょうか。はい。ありがとうございます。

御理解いただきましたので、プログラム3につきましては、「B」という評価で進めさせていただきます。ありがとうございます。

○佐藤会長

続きまして、プログラム4「生涯健康・活躍社会」についてであります。

21 ページを御覧いただきたいと思います。Bが18名、Cが2名で、多くの委員が「B」と評価されているところであります。こちらにつきましては何か御議論あるいはコメント等がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特になければ、「B」ということで進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい。ありがとうございます。そのような形で進めさせていただきます。

○佐藤会長

最後にプログラム5「危機管理強化」についてであります。

25 ページを、御覧いただきたいと思います。Aが15名、Bが5名で、多くの委員が「A」と評価されているところであります。

こちらにつきましては、何かコメント等がございましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

特になければ「A」ということで進めさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

何か御意見をいただければありがたいです。

意見がありませんので、プログラム5につきましては「A」という外部評価で進めさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

はい。ありがとうございます。

では、プログラム5については「A」という外部評価で進めさせていただきます。

以上で、プログラム5までの評価をいただきました。

それでは「令和3年度取組」についての各プログラムの最終的な評価につきましては、プログラム1は「B」、プログラム2は「B」、プログラム3は「B」、プログラム4は「B」、プログラム5は「A」ということで、よろしいでしょうか。

はい。異議なしということで決定したいと思います。

ただいまの政策評価の答申につきましては、いろいろと御意見をいただきましたので、最終的に私と事務局でまとめさせていただきたいと思いますが、御一任いただけますでしょうか。

ありがとうございます。それでは8月19日の知事への答申に向けまして、私と事務局で作業を進めてまいります。

以上で本日の議事はすべて終了いたしました。円滑な進行への御協力ありがとうございます。それでは、進行を事務局にお返しいたします。

○事務局

皆様御議論をいただきまして、ありがとうございました。事務局から2点御連絡をいたします。

この後、15時30分から第3回専門部会を開催いたします。各部会の会場につきましては、この同じフロアで、「人づくり部会」につきましては71号室、「くらしづくり部会」は72号室、「産業づくり部会」は73号室となります。お手元に配付の専門部会名簿で、担当部会を御確認の上、御移動をお願いします。

2点目ですが、机上に配布しております現行計画の冊子等につきましては、置いたままで結構でございます。

それでは以上をもちまして、第6回宮崎県総合計画審議会・宮崎県地方創生推進懇話会合同会議を閉会いたします。

ありがとうございました。